
2011年(平成23年)は、大いなる転機の年であったと思われます。3月の巨大地震、大津波、福島原発事故は大きな爪あとを残しています。これは、産業経済的な損失にとどまらず行政や地域社会の役割の見直し、都市計画など多岐にわたる様々な問題を認識させるに至りました。また、人々の心の問題や価値観の変容、生き方の見直しなど今後長く影響を及ぼすことは間違いないでしょう。ところで震災地域から大きく離れた九州であっても今後も電力不足の心配等で強気の積極的な経済活動は難しいものと思われます。さらに、消費税を含む増税の問題、TPP問題もあります。政治に目を向けても最大野党の自由民主党も頼りなく、次の選挙ではどうするかさっぱりわからない状況です。国外に目を向けても経済危機の問題がいつ発生するか解らないような状況ですし、問題が起これば当然日本経済にも悪い影響を及ぼすのは間違いありません。こうした状況を何とか乗り越えていくためには、ただ情報に振り回されるのではなく、正しいと思われる情報をしっかりと吟味し、自分のとるべき行動をしっかりと決め、あとは基本や原理・原則に乗っ取った方法でコツコツと出来る小さな努力を積み重ねることが大切だと思います。そして他人と比較したり、無理に周囲の状況に合わせる必要はないと思います。多数が必ずしも正解とは限らないからです。とにかく責任を持って自分のことは自分で守ることが必要となるでしょう。

事務所及び私個人にとっても大きな1年でした。3月にベテランを中心に数名の職員が退職し、それに伴い担当していたお客様の移籍がありました。3割を超える収入の減少とは成りましたが、職員の連帯感は強くなりました。経営方針に基づいたことは積極的に指示しなくてもある程度自主的に行なってくれます。税法等の社内研修は昨年から行なっていたのですが、今年は社外の研修にも積極的に参加するようになりました。備品や消耗品の購入にも気を配ってくれています。また男性職員を中心に営業活動にも力を入れてくれて廃業等の減少を含めても個人ベースではわずかですが増収傾向です。多くは皆様からの紹介ですので、この場を借りてお礼を申し上げます。**今後ともどうぞよろしくお願いいたします。**

私の業務においては、経理担当が退職したので事務所の経理の仕事が増えました。合理化のためインターネットバンキングの導入、それに伴う給与の銀行振り込み。小口現金の廃止。立替経費は科目別に集計し、給与振り込み時に精算。また銀行の支店が近くなったことから、集金は極力入金。残金は翌営業日の朝一入金で、したがって大抵現金残高ゼロです。帳簿入力も工夫し毎日行なっていますので月初には概算の経営状況が把握できるようになりました。事務所の収入管理台帳も税理士事務所専用のソフトの導入を予定していますので来年度は楽になると思います。(ただ今年の決算はちょっと苦戦しそうですが)。

個人的には夜間のセミナーや休日のイベントも積極的に計画し参加しました。大変でしたが充実した年でした。休日の旅行では、3回の延べ日数で京都に4日、奈良に2日滞在しました。京都は今年の春行って良かったから、また奈良は20年ぶりでした。来年も少なくとも1回は京都に行くつもりです。